

住宅用塗料 アーテック工房 ー東彼杵町八反田郷ー

木炭を活用した住宅用塗料の生産を手掛ける東彼杵町のアーテック工房(林田雅博社長、十八)。室内環境が原因で引き起こされる健康障害「シックハウス症候群」が社会問題化するなど、住宅分野も安全・安心が求められている。自然素材を生かし、住環境の改善に挑む同社を訪ねた。

(文・中山雄一 ー東彼支局 写真・田中英樹 ー佐世保支社)



〈31〉

建築資材の多様化で高気密化、高断熱化が進む現代住宅。半面、湿気がこもって結露が発生しやすい状態をつくり、カビやダニの温床となって健康への影響も懸念される。

吉松道晴前社長が住環境改善の視点で着目したのは

木炭で住環境改善

ふるさと経済



ヘルスコートの通気性を検証する装置。発泡コンクリート板上部の塗装面からは水が漏れず、反対に下から空気を注入すると気泡が出る。

木炭。調湿機能や悪臭の分解機能などの効能を生かした塗料を長年研究し、商品化に成功。製造販売を手掛ける同社を一九九九年に設立した。主力商品「ヘルスコート」は粉末化した木炭を特殊樹脂などと混ぜ合わせて液状化。日本と米国で特許を取得した。

「木炭は突き詰めるほど面白い素材」と実験装置を取り出すのは、一昨年に五十九歳で亡くなった吉松前社長の後を継いだ林田社長

「ヘルスコート」の原原料がヘルスコートの主原料。この粉末炭に同社が開発した通気性のある特殊樹脂を加えて完成させる。

工場内には原料を混ぜ合わせる縦横約二尺の攪拌機(かくはん機)を二台設置。専従スタッフがそれぞれに炭の粉末や樹脂、水などを投入し、自動で混ぜ合わせ

実証実験で効果裏付け

(西)ヘルスコートを塗装した発泡コンクリート板をガラスケースに設置し、塗装面に水を張る。水は漏れず、反対に板の下から空気を注入すると気泡が出る。これが水は通さず、空気だけを通すという木炭の通気性です。

今や木炭は脱臭剤として一般家庭に普及。だが、林田社長は「何となく体にいい」とされる効能を数値化することで、根拠ある住環境改善を目指す」と力説。通気性や通電性、シロアリ対策に至るまで公的機関の実証実験を通じて効果を裏付けている。

広葉樹のウバメカンを千二百度の高温で炭化し、千分の一単位に粉碎したものを「ミ」単位に粉碎した

環境浄化や電磁波対策に有効な同社製品は多分野で需要が高まっている。ヘルスコートは商業施設「東京ミッドタウン」の一部飲食店で使われ、同じく木炭を主原料とした防腐材「ヘルスコーク・キユア」はハウステンボス内の木製棧橋に試験導入。さらに同社は産学官連携のシックハウス症候群対策の実証実験に参加したり、大手ハウジングメーカーとの共同研究を通じて利用価値を高めている。

長崎市出身だった吉松前社長は「故郷で生み出した新技術を海外に発信したい」と夢を描いていたという。同じく同市出身の林田社長も木炭技術を発展させ、農業分野で生かせる土壌の環境浄化に着手。「技術力をさらに高め、長崎から世界へ挑戦」と意欲的だ。



投入された粉末炭や特殊樹脂を約2時間かけて混ぜ合わせる攪拌機 ー東彼杵町 アーテック工房